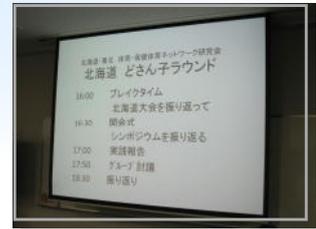


北海道・東北ネット

11月23日号 第3号

北海道開催 どさん子ラウンド 平成24年10月26日(金) 北海道教育大学札幌駅前サテライト



6月のさくらんぼラウンド、8月のわんこそばラウンドに続き、第3回の北海道・東北体育・保健体育ネットワーク研究会が北海道教育大学札幌駅前サテライトにおいて開催されました。

当初の予定に加え、当日参加の先生方も多数おり、40名以上の参加がありました。

特に、当日まで開催された「第51回 全国学校体育研究大会北海道大会」における成果と課題について、小学校・中学校・高等学校・大学・行政など様々な立場から共有できる素晴らしい協議をすることができました。

トピックス

筑波大学岡出教授より、シンポジウムの報告がありました。小学校、中学校、高等学校の先生方からの「指導と評価」についての実践発表について、補足説明や今後の在り方について貴重な御意見をいただきました。

私見ですが、北海道の参加者のうちシンポジウムを聞いた何人かに話を聞くと、それぞれ印象に残った場面が違うなど、先生方の立場や経験を踏まえて、シンポジウムの内容を自分なりに理解し、実践に向けての課題とする貴重な場だったようです。



第8分科会の授業者である札幌市立稲穂中学校 市川みお先生が、当日急きょ参加していただきました。市川先生からは、今までの実践のこと、今困っていること、これからのことなどについてお話しいただきました。全国研の授業者の先生方は、大いなるプレッシャーの中準備を進め、当日を迎えるものなんだと感じ、改めて敬意を表します。本当にお疲れ様でした。

また、市川先生は北海道教育大学出身ということで、古川教授からの愛情の裏返しとも言える(?)ご指導のほか、参加者の先生方からも、授業を見た感想や市川先生の考えについて、活発な意見交流を行いました。



実践報告、グループ協議

鹿屋体育大学佐藤教授の進行により、グループ協議で出た意見について交流を深めました。

指導案についてまだまだ改良の余地があること、指導と評価の一体化が今後の課題であること、動きを修正したり、原理原則へと導いたりする教師の指導を明確に行う必要性などについて、協議を深めました。

授業者や研究担当者の思いを受け止め、さらに充実させる観点の意見が相次ぎ、有意義な協議でした。

みなさん、次は1月秋田市で行う「きりたんぼラウンド」で！